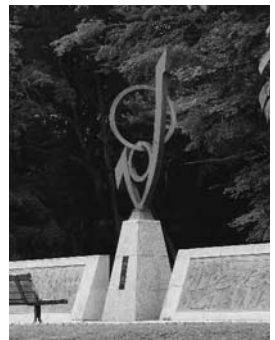




NO.100

北広ひとつまみ

通算100回



開基100年を記念したモニュメント

平成19年5月から始まった「北広ひとつまみ」。今号で100回を迎えます。今回は、北広島の100にまつわる事柄を集めてみました。

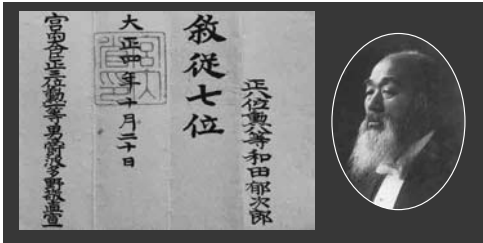
〈100年前の北広島〉

今から100年前の大正4年（1915年）は、前の年から始まった第1次世界大戦の最中でした。

左上の写真は、当時の広島尋常高等小学校の卒業式です。子どもたちの髪型や服装が現在と違いますね。中段にいる日本髪の女性は、先生で



広島尋常高等小学校の卒業式



従七位の位記（左）と、和田郁次郎（右）

しょうか。

同じ年、北広島を開墾した和田郁次郎が、従七位に叙されました。入植してから31年、69歳のころです。郁次郎の残した功績と苦労がしのべれます。

また、この年、輪厚郵便局が開局しました。

〈北広島開基100年〉

昭和59年に開基100年を迎えた北広島。この年、開拓記念公園が作られました。公園では、100年を記念したモニュメントを見ることが出来ます。

〈100歳です！〉

7月現在、市には100歳以上の方が25人います。このうち、9人の方が100歳です。皆さん、元気で長生きしてくださいね。北広ひとつまみは、これからも北広島の話題を、つまんでいきたいと思っています。

【まちネタ】募集中

北広島の「おもしろい」「伝えたい」と思う情報をお寄せください。お待ちしております!!



まめ記者

ユネスコスクールとして



西部中学校3年 菊地爽太さん (生徒会長)

西部中学校は、ユネスコスクールに認定されています。ユネスコスクールの目標の一つに、ESD（持続可能な教育）というものがあります。これは、私たちやその子孫が、これからずっとこの地球で生きていくためには、どうしたらよいかを考えていくというものです。西部中では、そのESDの教育活動の一つとして、カボチャ栽培を行っています。

5月に行われた芽立て集会では、ポットの土にカボチャの種を入れ、各生徒が自分の手で育てることが出来る状態にし、苗移植集会では、その苗を畑に移植します。収穫集会では、一生懸命種から育てたカボチャを自分たちの手で収穫します。これを学校祭の時に販売したり、地域の施設に寄贈したりするなど、二次的な活動も行っています。

これからもカボチャ栽培を通して環境について考え、活気のある学校をつくっていききたいです。



カボチャ栽培の様子